

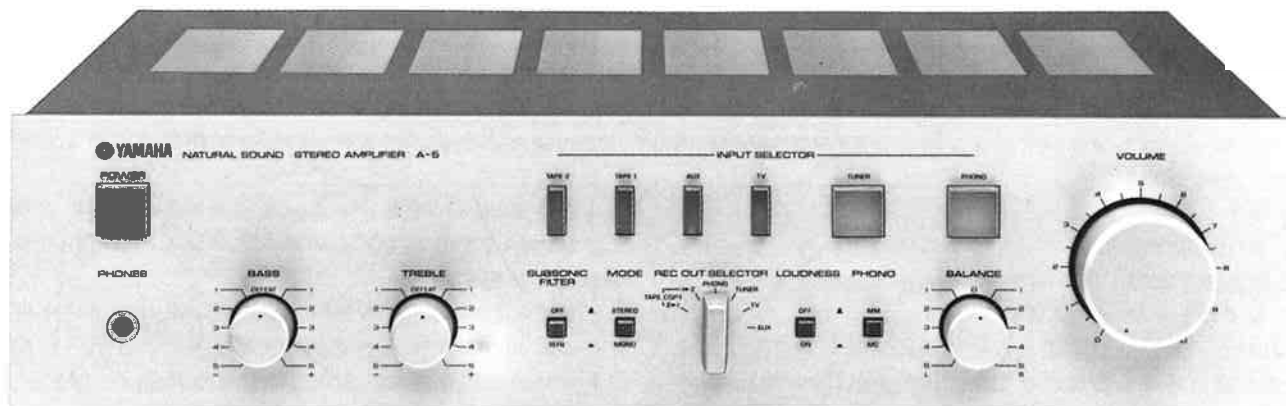


YAMAHA

Integrated Stereo Amplifier

A-5

取扱説明書



特長

■ごあいさつ

このたびは、ヤマハステレオプリメインアンプA-5をお買い求めいただきましてまことにありがとうございました。

A-5は、操作性の良いINPUTセレクタースイッチによるスムーズなプログラムの選択、MMカートリッジの他にMCカートリッジの使用も可能にした、多機能な各種付属機構を備えた高性能プリメインアンプです。

A-5の優れた性能をフルに発揮させると共に長年支障なくお使いいただくため、この取扱説明書をご使用前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

■目次

ご使用になる前に/次のことにご注意ください	3
接続方法	
接続図	4
接続と使いかた	5
各部の名称と機能	6
演奏方法	
演奏前の準備	8
レコードの演奏	8
AM/FM放送の受信	8
テレビ音声の受信	9
AUX端子に接続されたオーディオ機器の再生	9
テープデッキの再生	9

録音のしかた

レコードや放送の録音	10
レコードを聞きながら放送を録音	11
テープのダビング(複写)	11
ブロックダイアグラム	12
規格	13
故障と思われるときには	14
サービスのご依頼について	15

■ステレオを楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

■特長

●すぐれた基本設計

パワーアンプやイコライザー、トーンコントロールなどには、全て±2電源方式の差動入力、カレントミラー、およびコンプリメンタリーSEPPの終段回路を採用。基本回路を重視した設計です。

●低歪率パワーアンプ

定格出力40W+40W(歪率0.02%)のパワーアンプはDC構成で、ハーフパワーの歪率は0.007%以下と低歪率を実現。スピーカーを守る保護回路付きです。

●MCカートリッジも使えるイコライザーアンプ

MM、MCほとんど全てのカートリッジが使えるイコライザーアンプ部は、カートリッジ交換による音の違いを楽しむことができ、±0.2dB(20~20kHz)のRIAA特性と、高いSN比(86dB)の実現により、フラットな周波数特性と大きなダイナミックレンジを獲得しています。

●ヤマハNF-CR型トーンコントロール

トーンコントロール回路はヤマハ独自のNF-CR型を採用、DEFEATポジションではフラットな特性となります。

●INPUTセレクターは一発セレクト

新しくTVポジションを設けたINPUTセレクタースイッチはプッシュスイッチで一発セレクト。グリーンランプがプログラムソースを明確にインジケートします。

また、REC OUTセレクタースイッチとの併用により、レコードを聞きながらFMの録音などができるダブルアクションも可能です。

●豊富な付属回路

不要な超低域のノイズを取り除くサブソニックフィルター、スピーカーの音を切って独りで聞けるヘッドホンジャック、左右のバランスを得るバランスコントロール、相互ダビングが可能な2系統のテープ回路、小音量時に効果的なラウドネススイッチなど、豊富な付属機能によりあらゆる目的に適應することができます。

●内部構造とデザイン

フロントパネルは、ヤマハならではの細かな配慮とパーツの選択により、優美なデザインと操作性の良さを造り出し、内部のレイアウトは極力配線材料による特性の劣化を避ける構造とし、音質の向上を図っています。

ご使用になる前に／次のことにご注意ください



設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となりますのでご注意ください。

- 窓際など直射日光の当る場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- 温度の特に低い場所
- 湿気やホコリの多い場所
- 振動の多い場所



水に濡れたら

万一雨が降ったり、花びんなどの水をセットにこぼした時は、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



キャビネットを開けない

キャビネットや底板を開けて内部に手などを入れますと故障や感電事故を起すことがあります。何か異物が入ったときには、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



セット上面の通風孔をふさがない

セット上面の通風孔の上にレコードなどを置かないでください。内部の温度が上昇し、故障の原因になります。



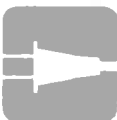
予備電源コンセント

背面パネルのACコンセントの容量は、SWITCHEDは2個で100Wまで、UNSWITCHEDが150Wまでとなっております。接続する機器の消費電力を確かめて容量以上の消費電力を持った機器は絶対に接続しないでください。



無理な力を加えない

スイッチやつまみ類に無理な力を加えることは避けてください。



電源コードも大切

コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、コードをひっぱらないで必ずプラグを持って抜いてください。旅行などで長時間ご使用にならないときは、電源コードのプラグをコンセントからはずしてください。
※ 本機は国内仕様です。必ずAC100Vの電源コンセントにプラグを差し込んでお使いください。100V以外の(例えば200V)の電源には絶対に接続しないでください。



セットの移動

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため必ず電源プラグを抜き、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。



VOLUMEつまみは0(最小)に

レコード演奏の際、カートリッジをレコード盤面から上げたり下げたりするとき、聴感上それほどの音圧を感じなくても、超低域の大電流が流れてスピーカーを破壊することがあります。このような場合、必ずアンプのVOLUMEつまみを左一杯“0”に回してレコードを演奏し、徐々にVOLUMEつまみを右に回すようにしてください。



入出力コードを抜き差しする場合

VOLUMEつまみを右一杯に回してある場合に、入出力コードを抜いたり差し込んだりすると、ショックノイズによって大きな音が出たり、スピーカーを破壊することもありますので、入出力コードの抜き差しは必ず電源スイッチをOFFにしてからおこなってください。



セットのお手入れには

セットをベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布したりすることは避けてください。

お手入れには、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。



保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。よろしくお願いいたします。



もう一度調べてください

故障かな?と思ったら、まず14ページのトラブルチャートを見てください。意外なところで操作を誤っていることがあります。



保管してください

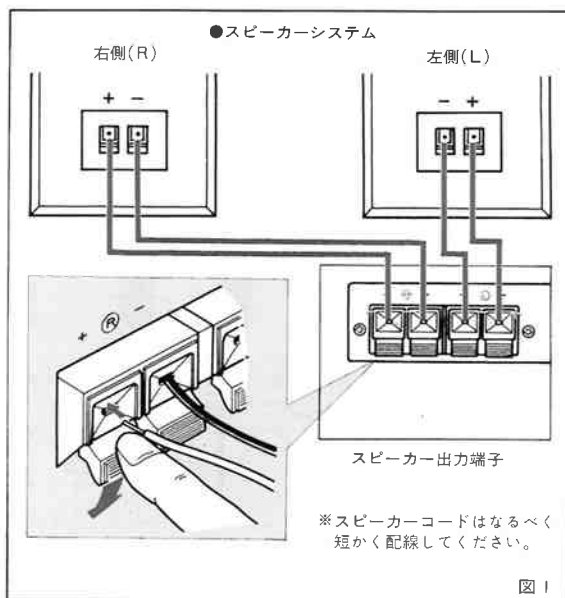
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

接続と使いかた

■スピーカーシステムの接続

リアパネルのスピーカー出力端子(SPEAKER)にスピーカーシステムを接続してください。

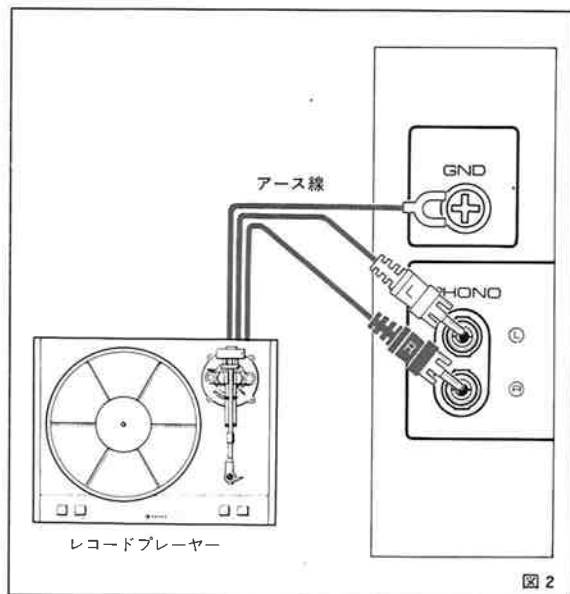
- 1 リアパネルの SPEAKER 端子へ、向かって左側のスピーカーシステムのコードをL端子、右側のスピーカーシステムのコードをR端子に、極性(+、-)を確認して接続してください。まちがえて接続すると低音のそこなわれた不自然な再生音になってしまいますから注意してください。
- 2 図1のように端子穴の下のレバーを押し、スピーカーコードの芯線部分をさし込み、レバーを離しますとコードがロックされます。接続が不完全ですとスピーカーから音が出ない場合がありますので、確実にロックされたか確認してください。



■レコードプレーヤーの接続

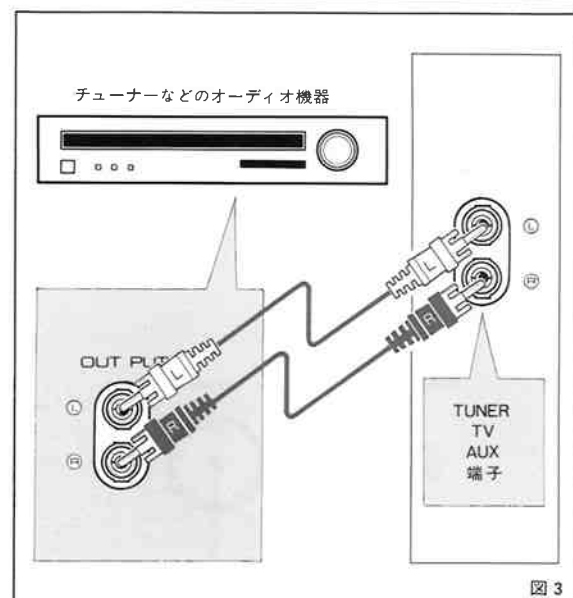
レコードプレーヤーの出力コードをPHONO端子に接続し、アース線の出ているものはアース線をGND端子に接続してください。(図2)

- ◇アース線を接続して、ハムなどの雑音が出るようでしたらアース線は接続しないでください。



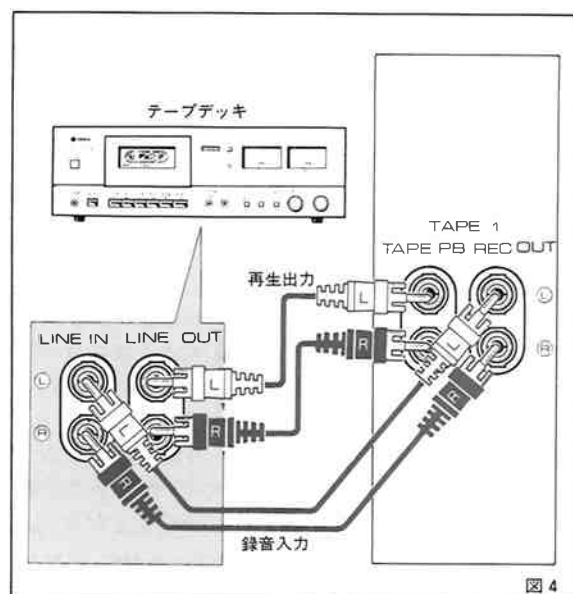
■チューナーなどの接続

FMチューナーはTUNER端子、ステレオTVチューナーはTV端子、その他のオーディオ機器はAUX端子にそれぞれ接続してください。(図3)

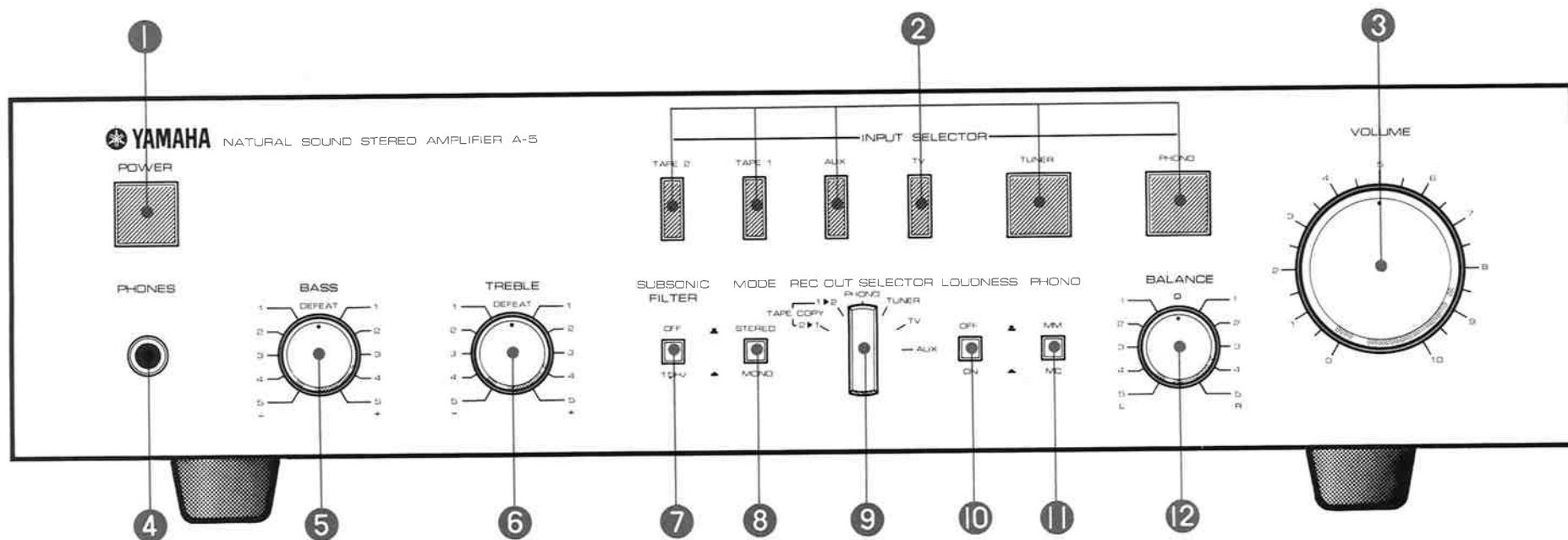


■テープデッキの接続

本機では、TAPE 1、TAPE 2 端子にテープデッキを2台接続できます。TAPE PB端子とテープデッキのLINE OUT端子、REC OUT端子とテープデッキのLINE IN端子を接続してください。(図4)



各部の名称と機能



① POWER(電源スイッチ)

このスイッチを押すと電源が入り、スイッチ内にランプが点灯します。さらにもう一度押すと電源が切れます。

◆電源を入れて数秒はスピーカーから音が出ません。これは電源を入れたときのポップノイズを取り除くためにスピーカー保護回路が働いているためです。

◆電源スイッチを押すときは、不用意に大きな音が出ないように必ずVOLUMEツマミを最小の位置(左一杯:0)に回しておくようにしてください。

◆電源スイッチ投入後、すぐPHONOのMC-MM切り換えはクリック音が出る場合がありますのでVOLUME(音量調節ツマミ)は最小にしておいてください。

② INPUT SELECTOR(入力切り換えスイッチ)

接続されているプログラムソースを選択するスイッチで、演奏したいプログラムソースのボタンを押すとスイッチ内にランプが点灯し、動作していることを示します。

プログラムソース	INPUT SELECTORスイッチ
レコードを演奏するとき	PHONO
FMチューナーの再生	TUNER
TVチューナーの再生	TV
AUX端子に接続されたオーディオ機器の再生	AUX
TAPE 1に接続されたテープデッキの再生	TAPE 1
TAPE 2に接続されたテープデッキの再生	TAPE 2

③ VOLUME(音量調節ツマミ)

全体の音量を調整するツマミで、右に回すほど音量が大きくなります。

④ PHONES(ヘッドホン端子)

ヘッドホンのプラグをこの端子に差し込むと、スピーカーの音が切れてヘッドホンで聞くことができます。

⑤ BASS(低音調整ツマミ)

低音域の特性を調整するツマミで、“DEFEAT”ポジションでフラットな特性になります。右に回すほど低音が強調され、左に回すほど減衰されます。

◆BASSのつまみを回してDEFEATおよび±1目盛りの間で小さなクリック音が感じられることがあります。これはDEFEAT時のスイッチ機構によるもので故障ではありません。

⑥ TREBLE(高音調整つまみ)

高音域の特性を調整するつまみで、「DEFEAT」ポジションでフラットな特性になります。右に回すほど高音が強調され、左に回すほど減衰されます。

⑦ SUBSONIC FILTER(サブソニックフィルタースイッチ)

レコードのソリや偏芯などにより超低域の雑音が発生し、低音用スピーカーのコーン紙を異常にふらつかせることがあります。このような超低域の雑音は直接耳には聞こえませんが音質に悪影響を与えます。このような時、ボタンを押して「ON (■)」にすると、15Hz以下の超低域を減衰させることができますので常時、「ON (■)」にしておきましょう。

⑧ MODE(モードスイッチ)

ステレオとモノラルの切り換えスイッチで「MONO (■)」ポジションでモノラルとなり、「STEREO (■)」ポジションでステレオとなります。

⑨ REC OUT SELECTOR(録音出力切り換えスイッチ)

接続されているテープデッキに録音用の信号を送るスイッチです。INPUT SELECTOR(入力切り換えスイッチ)に関係なく接続されているプログラムソースを録音することができます。

(P11参照)

⑩ LOUDNESS(ラウドネススイッチ)

小音量のときの聴感を補正するスイッチです。人間の耳は小さな音量になると低域と高域が聞こえにくくなる性質があります。小音量のときにこのスイッチを「ON (■)」にすると低域と高域を増強して音量バランスとなります。

⑪ PHONO(フォノ切り換えスイッチ)

MM型(ムービングマグネット型)カートリッジと、MC型(ムービングコイル型)カートリッジの切り換えスイッチです。

レコードプレーヤーのトーンアームに取り付けられたカートリッジに合わせて切り換えてください。

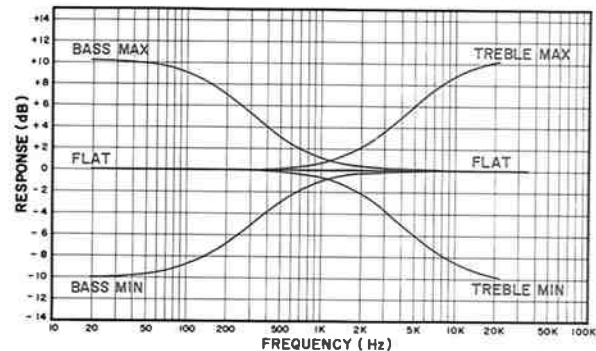
◆このスイッチは構造上、他のスイッチより押す力が強くなっています。

⑫ BALANCE(バランスコントロールつまみ)

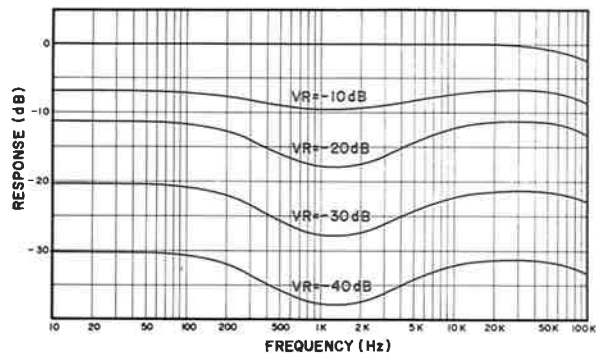
スピーカーシステムの配置や、家具などの影響によって左右スピーカーの音の大きさが異なる場合があります。このような時、このつまみを回して左右の音量バランスを調整してください。

右側の音量が小さい場合にはセンターより右(R側)に回し、左側の音量が小さい場合には左(L側)に回します。

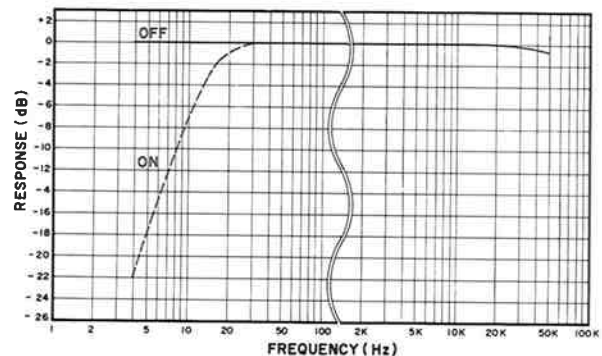
■トーンコントロール特性



■ラウドネスコントロール特性



■サブソニックフィルター特性



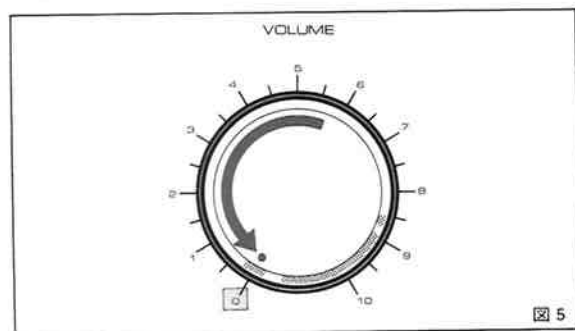
演奏方法

■演奏前の準備

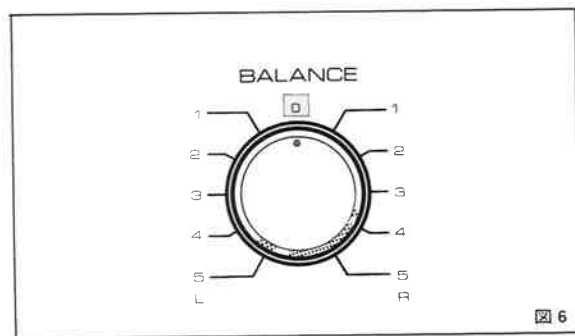
① 接続の確認

- 接続図を参照して接続に間違いがないか。
 - スピーカーシステムの左(L)、右(R)、極性(+、-)に間違いがないか。
 - ピンコードの左(L)、右(R)が逆になっていないか。
 - 各コードがしっかりと接続されているか。
- 以上の点をもう一度確かめてください。

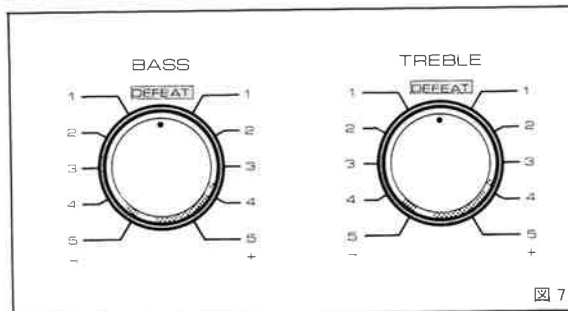
- ### ② 音量が最小になるように VOLUME ツマミを左に回しておきます。



- ### ③ BALANCEコントロールつまみは、中央(0)にします。

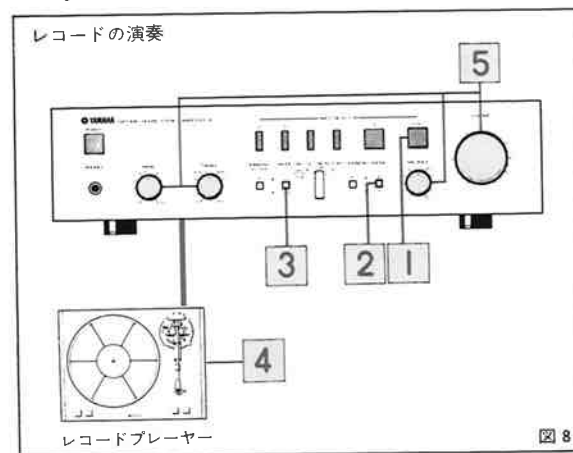


- ### ④ BASS、TREBLEのトーンコントロールつまみを、中央(DEFEAT)にします。
- ### ⑤ POWERスイッチを押してONにします。



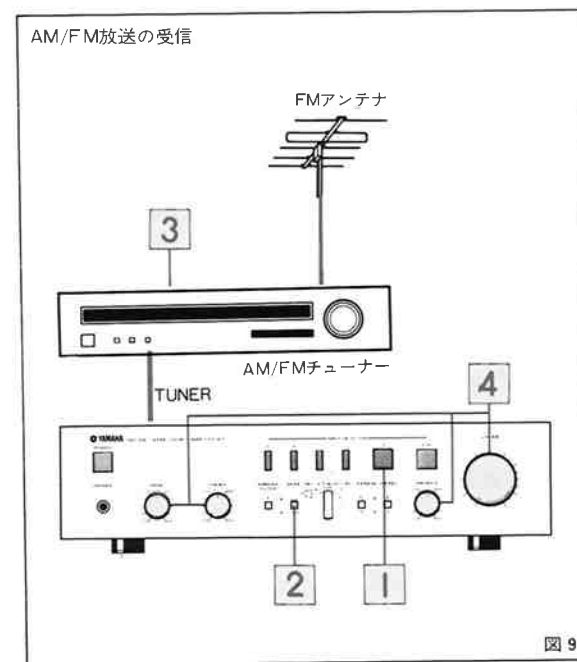
■レコードの演奏

- ### ① INPUT SELECTORの“PHONO”ボタンを押します。
- ### ② PHONOスイッチを使用カートリッジに合わせて、“MM(■)”か“MC(■)”に切り換えます。
- ### ③ ステレオレコードの演奏は、MODEスイッチを“STEREO(■)”に切り換えます。(モノラルレコードの場合は“MONO(■)”)。
- ### ④ レコードプレーヤーを操作し、レコードを演奏します。
- ### ⑤ VOLUME、BALANCE、BASS、TREBLEの各つまみを回して適当な音量と音質にしてください。



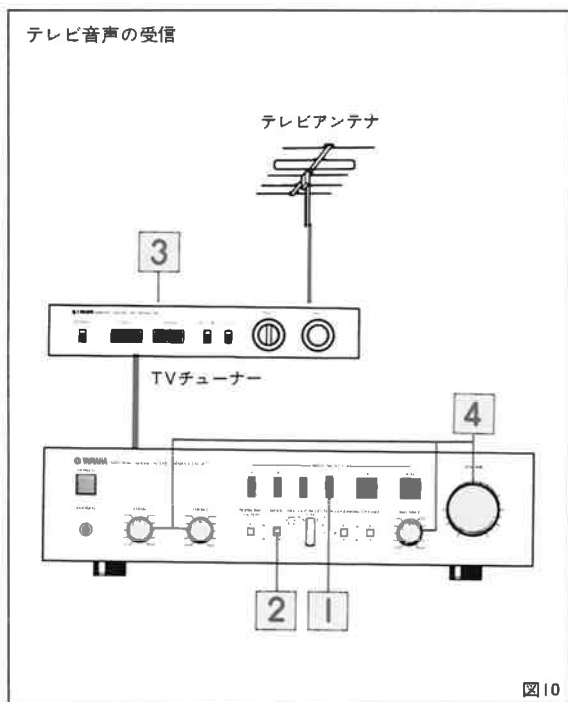
■AM/FM放送の受信

- ### ① INPUT SELECTORの“TUNER”ボタンを押します。
- ### ② FMステレオ放送を受信する場合、MODEスイッチを“STEREO(■)”にします。
- ### ③ AM/FMチューナーを操作し、放送を受信します。
- ◆ チューナーにOUTPUT LEVELつまみがある場合は、これを回して出力レベルを調整します。
- ### ④ VOLUME、BALANCE、BASS、TREBLEの各つまみを回して適当な音量と音質にしてください。



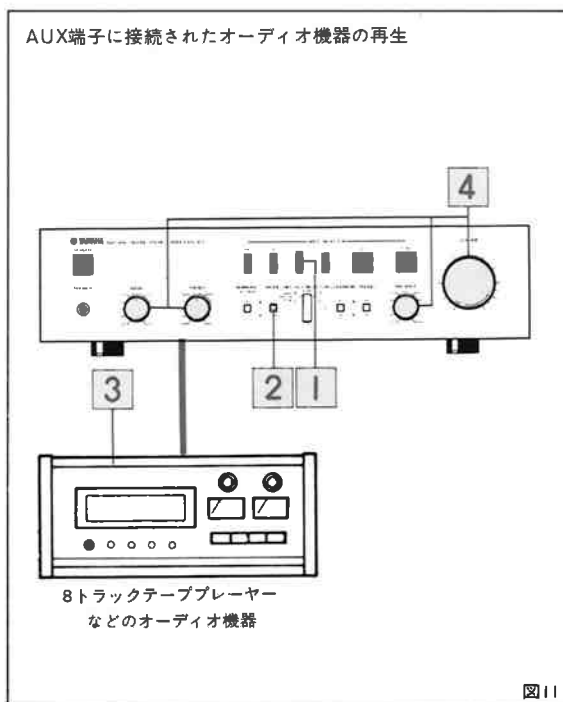
■テレビ音声の受信

- ① INPUT SELECTORスイッチの“TV”ボタンを押します。あとはAM/FM放送の受信の②～④と同じ順序で操作してください。



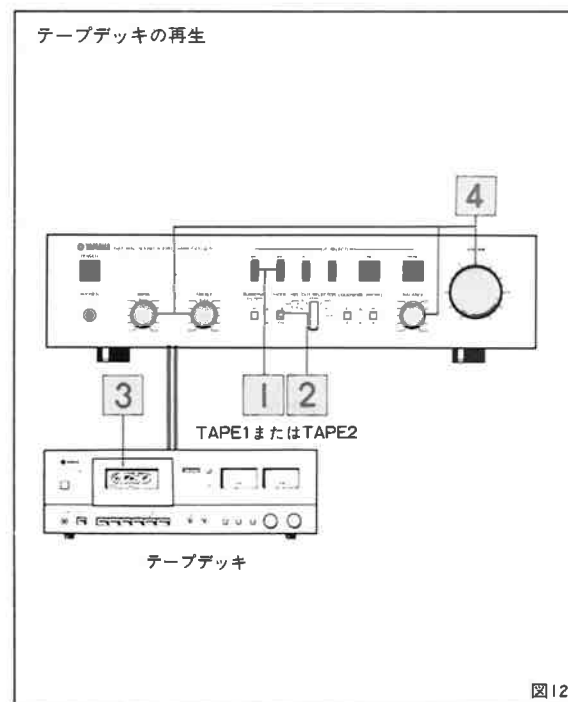
■AUX端子に接続されたオーディオ機器の再生

- ① INPUT SELECTORスイッチの“AUX”ボタンを押します。
- ② プログラムソースがステレオの時はMODEスイッチを“STEREO(■)”に、モノラルの時は“MONO”にします。
- ③ 接続されたオーディオ機器を動作状態にします。
- ④ VOLUME、BALANCE、BASS、TREBLEの各ツマミを回して適当な音量と音質にしてください。



■テープデッキの再生

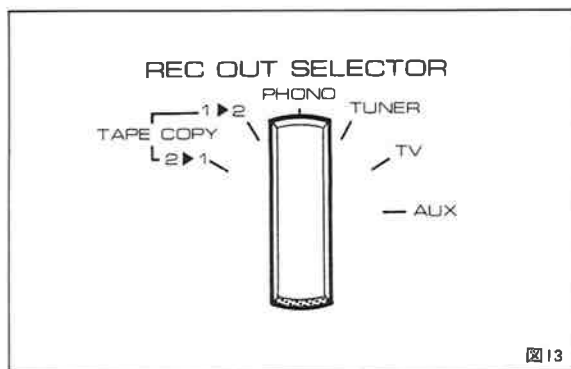
- ① INPUT SELECTORスイッチを再生したいテープデッキに合わせて“TAPE1”または“TAPE2”のボタンを押します。
- ② ステレオテープの再生は、MODEスイッチを“STEREO(■)”にします。
- ③ テープデッキを再生状態にします。
- ④ VOLUME、BALANCE、BASS、TREBLEの各ツマミを回して適当な音量と音質にしてください。



録音のしかた

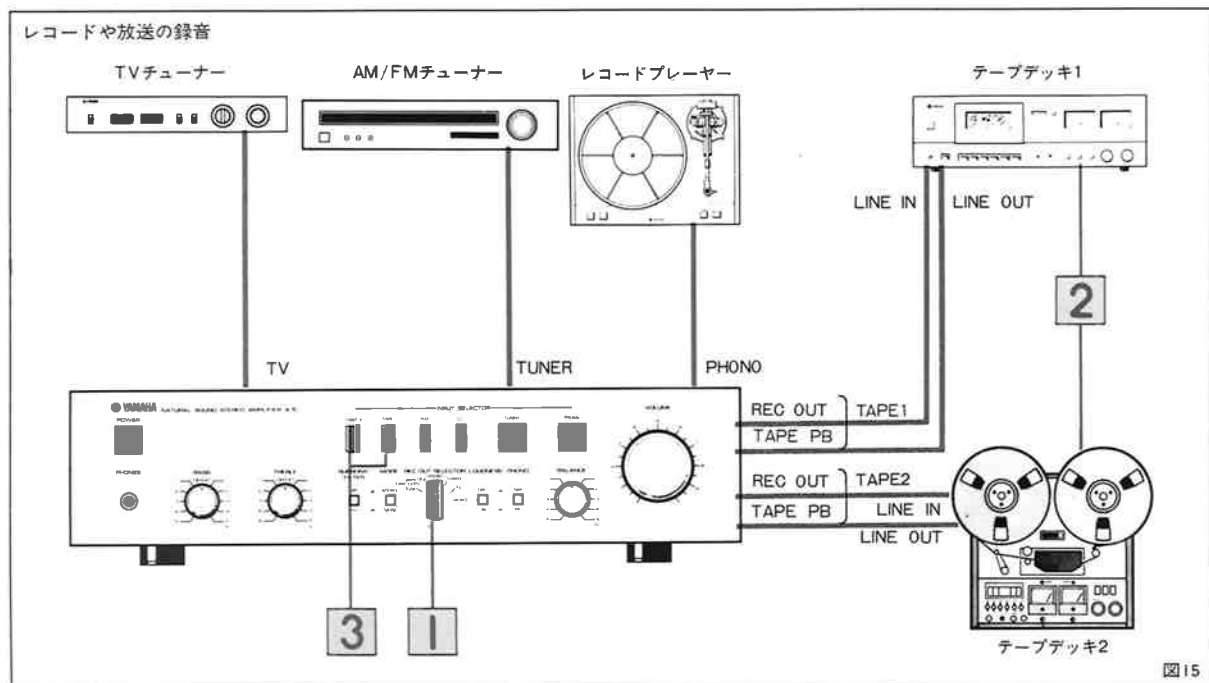
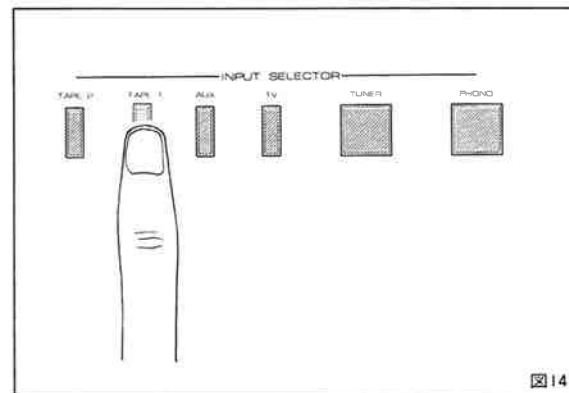
■レコードや放送の録音

① REC OUT SELECTORスイッチで録音したいプログラムソースを選択します。



② テープデッキを録音状態にします。(同時に2台までのテープデッキに録音できます)

③ 録音内容をモニター(録音する音を再生)するときは、INPUT SELECTORスイッチを録音しているテープデッキ"TAPE1"または"TAPE2"に合わせると、録音内容をモニターすることができます。



■レコードを聞きながら放送を録音

- ① INPUT SELECTORスイッチを“PHONO”にしてレコード演奏をスピーカーで聞きながら。
 - ② REC OUT SELECTORスイッチを“TUNER”にしてFM放送をテープデッキに録音します。
- ◆本機ではこのようにして、一つのプログラムソースをスピーカーで聞きながらもう一つのプログラムソースを録音することができますので、INPUT SELECTORとREC OUT SELECTORの組み合わせにより、いろいろなプログラムソースを二重にお楽しみいただけます。

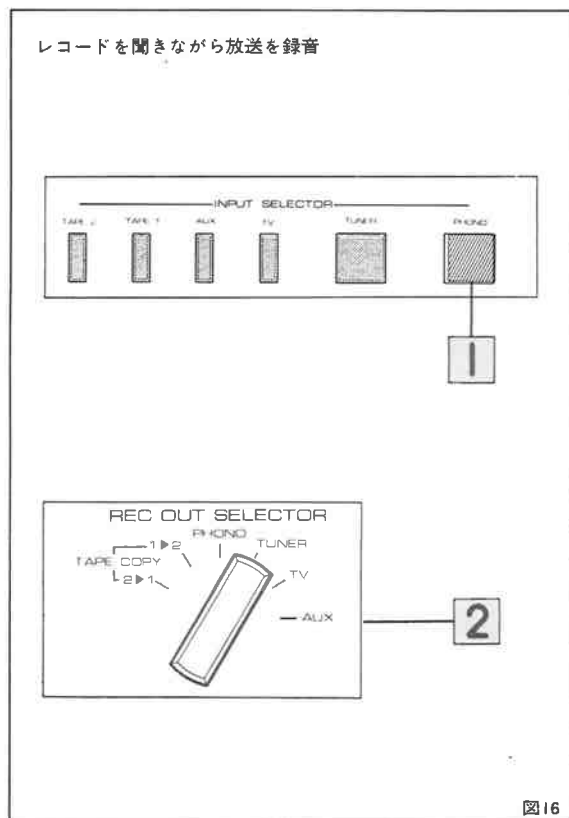


図16

■テープのダビング(複写)

本機ではTAPE1端子に接続してあるテープデッキ1からTAPE2端子に接続してあるテープデッキ2へのダビングがおこなえます。この場合、REC OUT SELECTORスイッチを TAPE COPY 1▶2 のポジションにセットし、テープデ

ッキ1を再生操作、テープデッキ2を録音操作にします。

- ◆TAPE2からTAPE1へのダビングも同様にしてREC OUT SELECTORスイッチをTAPE COPY 2▶1のポジションにセットします。

テープのダビング

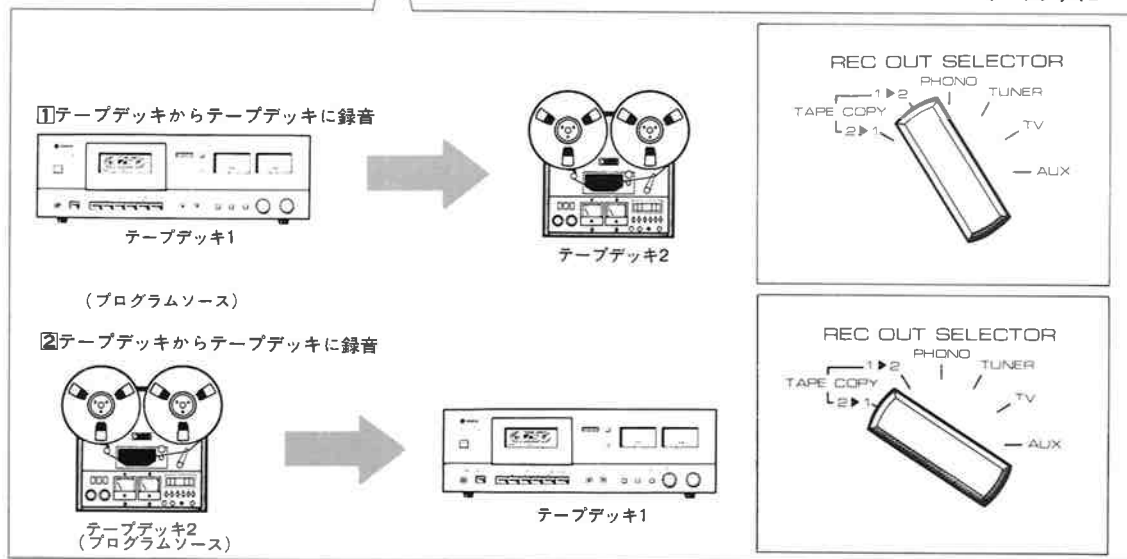
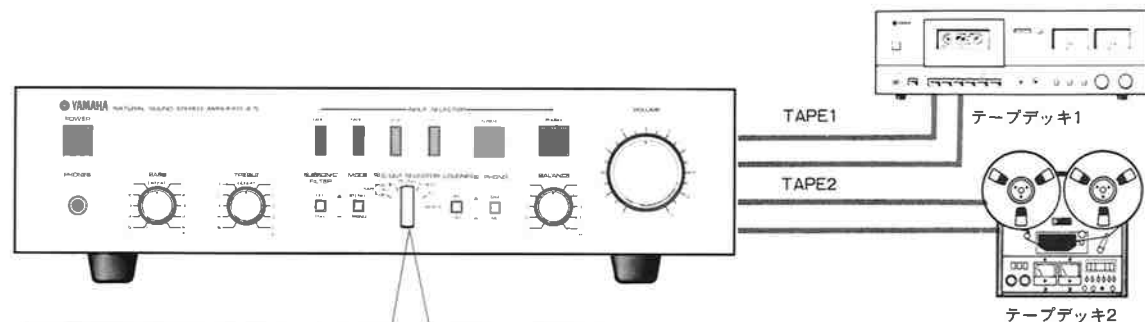
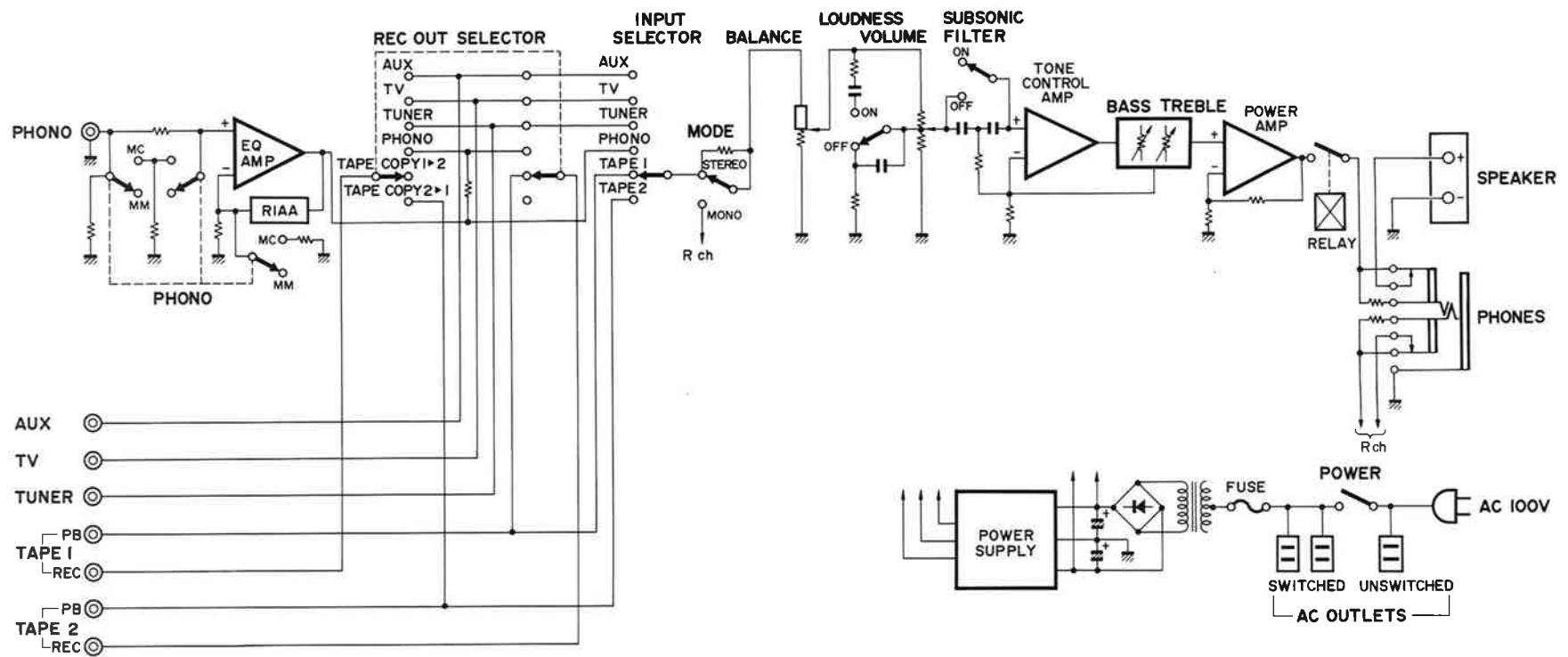


図17

ブロックダイアグラム



規格

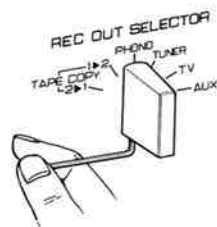
実効出力(両CH駆動、EIAJ)	8Ω 0.02%	40W+40W(20Hz~20kHz)
入力感度/	PHONO MM	2.5mV/47KΩ(220PF)
入力インピーダンス	PHONO MC	250μV/100Ω
	TUNER、TV、AUX、TAPE1、2	150mV/47KΩ
最大許容入力	PHONO MM	200mV以上(1kHz、0.005%)
	PHONO MC	20mV以上(1kHz、0.05%)
出力レベル/	REC OUT 1、2	150mV/600Ω
出力インピーダンス		12V(1kHz、0.005%)(PHONO最大出力)
SN比(入力ショートIHFAネットワーク)		
	PHONO MM	86dB
	PHONO MC	70dB
	TUNER、TV、AUX、TAPE1、2	104dB
残留ノイズ(VOL→MIN、IHF Aネットワーク)		120μV以下
N. D. C. R	PHONO MM→SP OUT	12mW~40W(0.1%、1kHz、-20dB VOL、Rg=10Ω、IHF Aネットワーク)
全高調波歪率	PHONO MM→REC OUT	0.005%以下(20Hz~20kHz、3V) 0.003%以下(1kHz)
	PHONO MC→REC OUT	0.05%以下(20Hz~20kHz、3V) 0.005%以下(1kHz)
	TUNER、TV、AUX、TAPE1、2→SP OUT	0.007%以下(20Hz~20kHz、20W、8Ω)
	PHONO MM→SP OUT(VOL-30dB)	0.01%以下(20Hz~20kHz、20W、8Ω)
混変調歪率(IHF、60Hz:7kHz=4:1、AUX→SP OUT)		0.005%以下(20W、8Ω)
パワーバンドウィズ(-3dB)		10Hz~70kHz(0.05%、20W、8Ω)
ダンピングファクター		50以上(1kHz、8Ω)

周波数特性	PHONO MM(RIAA偏差)→REC OUT	20Hz~20kHz±0.2dB
	PHONO MC()→REC OUT	30Hz~20kHz±0.5dB
	TUNER、TV、AUX、TAPE1、2→SP OUT	4Hz~100kHz± $\frac{1}{2}$ dB
トーンコントロール特性	BASS(ターンオーバー500Hz)	20Hz±10dB(最大可変幅)
	TREBLE(" 3kHz)	20kHz±10dB(最大可変幅)
フィルター特性	SUBSONIC(カットオフ15Hz)	12dB/OCT
ラウドネス特性	VOL-30dB	70Hz +9dB
	ラウドネススイッチON	1kHz +2dB
	(OFFに対して)	10kHz +7dB
チャンネルセパレーション	TUNER、TV、AUX、TAPE1、2→SP OUT	65dB(1kHz、5.1KΩ)
ヘッドホン出力(定格出力時)		50mW(8Ω)
使用半導体	トランジスター	43
	IC	2
	ダイオード	13
	ツェナーダイオード	1
ACアウトレット	SWITCHED×2	TOTAL 100W MAX
	UNSWITCHED×1	150W MAX
定格電源電圧		AC100V
定格電源周波数		50/60Hz
定格消費電力		115W
外形寸法(W×H×D)		435×112×338
重量		7.8kg

付属品 六角レンチ 1.5φ×1

●付属品について

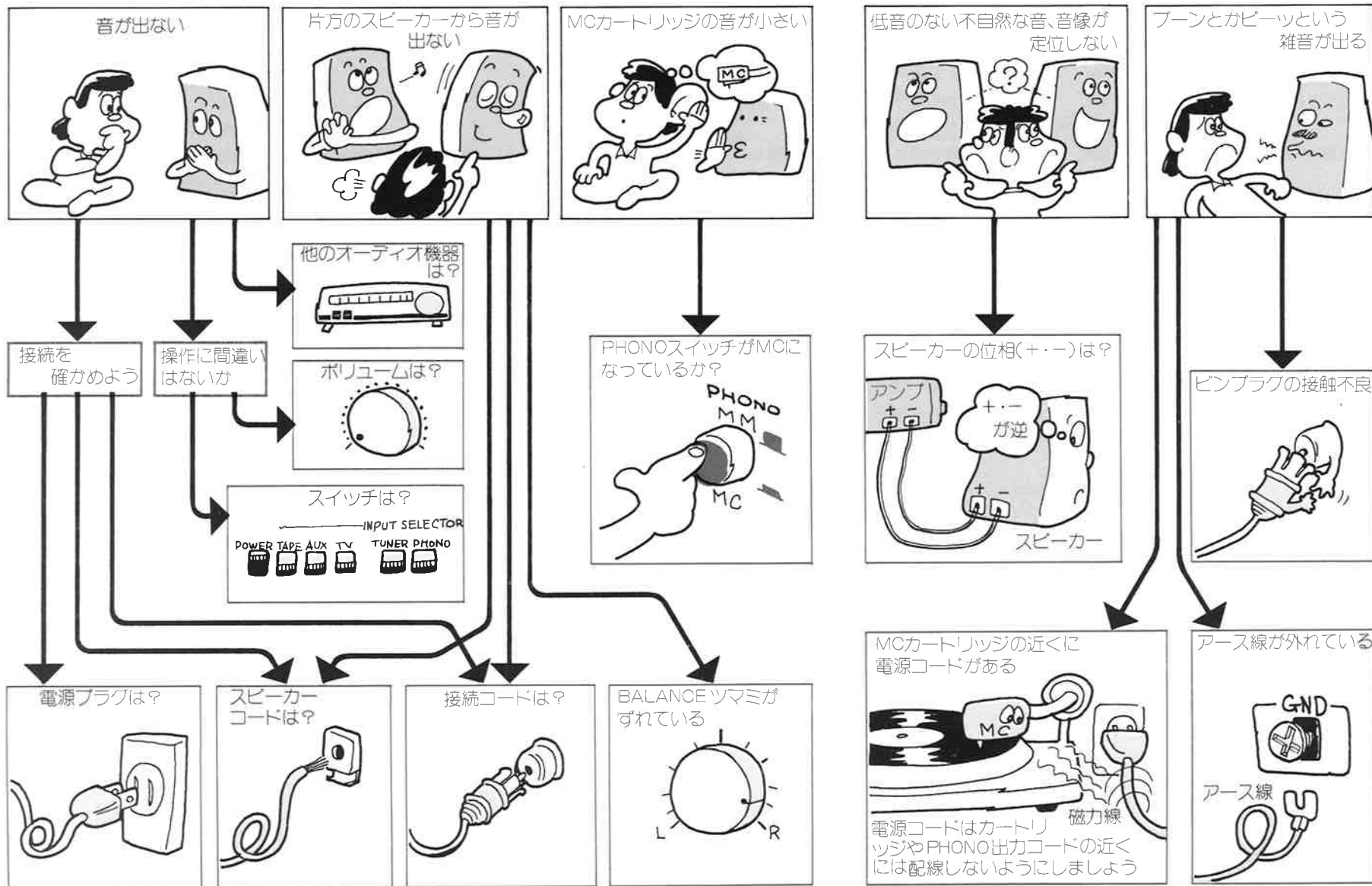
六角レンチはREC OUT SELECTOR
スイッチの位置を調整したり、ゆるんだ時
にお使いください。



※規格および外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

故障と思われるときには

故障?と思っても、もう一度確認してみましょう。



※ なにか異常が認められました場合は、Powerスイッチをoffにするか本機の電源プラグをコンセントから抜いて、最寄りの販売店が弊社ステレオサービス係までご連絡ください。

サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買い上げ店、または日本楽器各支店ステレオサービス係へお願いいたします。

■本機の保証は、保証書によりご購入日から満1ヵ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。

■保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。なお、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。尚、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービスネットワーク（ステレオサービス係）宛お問い合わせください。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中“故障と思われるときには…”の項をお読みになってください。意外と故障ではない場合があるものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(ステレオの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければなら

ないようにときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

■日本楽器各支店への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買い上げ店、又は最寄りの日本楽器各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右のステレオサービス係又は裏表紙の日本楽器各支店の所在地と電話番号をご参照ください。)

■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)

■サービスのお約束

昼間ご不在がちなお客さまや留守がちのお客さまは、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願いいたします。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

■サービスネットワーク(ステレオサービス係)

北海道事業所・〒064	札幌市中央区南十条西1丁目(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台事業所・〒983	仙台市原町南目薬師堂北2-1(宮城野センター) TEL (0222)95-6111
東京事業所・〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03)255-2241
浜松駐在・〒430	浜松市田町32(東京海上ビル5F) TEL (0534)54-4115
名古屋事業所・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
北陸駐在・〒921	金沢市泉本町7-7(ヤマハ金沢センター) TEL (0762)43-6111
大阪事業所・〒550	大阪市西区江戸堀1-9-1(肥後橋センタービル6F) TEL (06)445-6421
四国駐在・〒760	高松市西宝町2丁目6-44(高松センター) TEL (0878)33-2233
広島駐在・〒731-01	広島市祇園町西原2205-3 TEL (08287)4-3787
九州事業所・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)472-2151

日本楽器製造株式会社

本社・工場 〒430・浜松市中沢町10-1
TEL・0534(65)1111

東京支店 〒104・東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内
TEL・03(572)3111

銀座店 〒104・東京都中央区銀座7-9-14
TEL・03(572)3131

横浜支店 〒231・横浜市中区本町6-61-1
TEL・045(212)3111

横浜店 〒220・横浜市西区南幸2-15-13
TEL・045(311)1201

千葉支店 〒280・千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内
TEL・0472(47)6611

関東支店 〒370・高崎市歌川町8番地/高崎センター内
TEL・0273(27)3366

大阪支店 〒564・吹田市新芦屋下1-16
TEL・06(877)5151

心斎橋店 〒542・大阪市南区心斎橋筋2-39
TEL・06(211)8331

神戸支店 〒651・神戸市葺合区浜辺通り6丁目1の36
TEL・078(232)1111

神戸店 〒650・神戸市生田区元町通2-188
TEL・078(321)1191

四国支店 〒760・高松市西宝町2丁目6-44
TEL・0878(33)2233

四国店 〒760・高松市丸亀町8-7
TEL・0878(51)7777

名古屋支店 〒460・名古屋市中区錦1-18-28
TEL・052(201)5141

北陸支店 〒921・金沢市泉本町7-7
TEL・0762(43)6111

九州支店 〒812・福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL・092(472)2151

福岡店 〒810・福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内
TEL・092(721)7621

小倉店 〒802・北九州市小倉区魚町1-1-1
TEL・093(531)4331

北海道支店 〒064・札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター
TEL・011(512)6111

仙台支店 〒983・仙台市原町南目薬師堂北2-1
TEL・0222(95)6111

仙台店 〒980・仙台市一番町2-6-5
TEL・0222(27)8511

広島支店 〒730・広島市紙屋町1-1-18
TEL・0822(48)4511

浜松支店 〒430・浜松市田町32
TEL・0534(54)4115

浜松店 〒430・浜松市鍛冶町122
TEL・0534(54)4111

海外支店 ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ
シンガポール・フィリピン